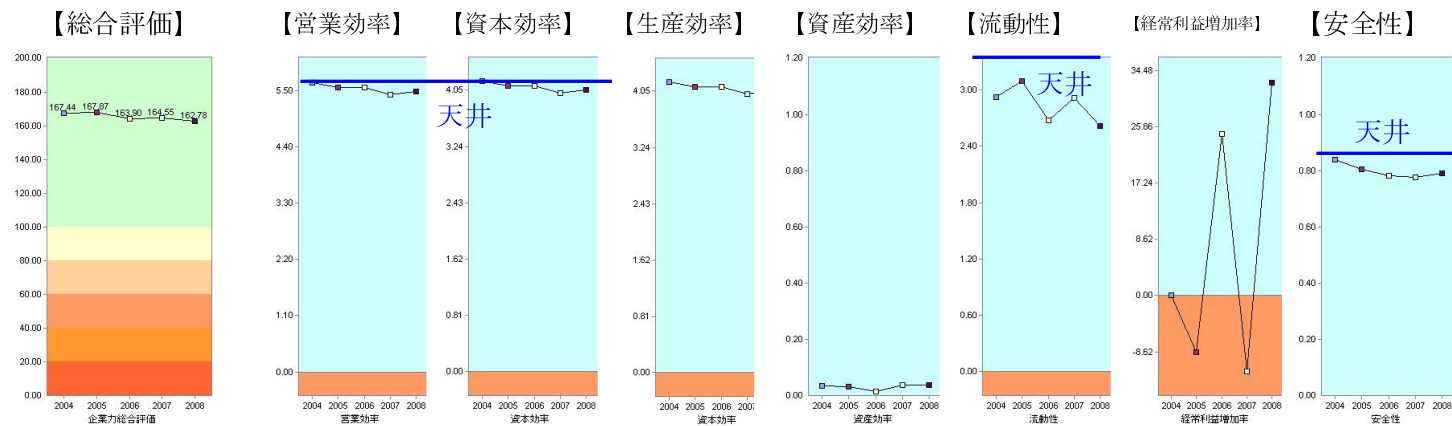


今回は、**㈱ファーストリテイリングの分析**を見てみましょう。**㈱ファーストリテイリングは、1998 年の原宿出店でフリースの大ブームを起こし一躍有名になりました。ユニクロと言った方が、分り易いかも知れません。2008 年秋にはヒートテックを投入し、売り切れ店続出となりました。ビジネスマンも防寒用に着用し、カジュアルウェアの殻を破りました。**

それでは、SPLendid21 による分析結果を見てみましょう。

㈱ファーストリテイリング



総合評価は高い位置を若干の下げトレンドで安定しています。

営業効率(儲かったかの指標)、資本効率(資本の利用度の指標)も、ほぼ天井値ですが、ほんの少しの下げトレンドです。

生産効率(生産性の指標)は、反発しながら下げトレンドです。

流動性(短期資金の状況の指標)は、天井に近いところから、反発しながら下げトレンドです。

安全性(長期の資金状況の指標)は、ほぼ天井から若干の下げトレンドです。

下位の指標がなんだか少しずつの下げトレンドから総合評価は若干の下げトレンド、というところでしょうか。しかし、160 点台ですのでかなり立派な成績です。

営業効率の各指標を見ていきましょう。

単位:円・%

	2004年8月	2005年8月	2006年8月	2007年8月	2008年8月
売上高合計	339,999,000,000	383,973,000,000	448,819,000,000	525,203,000,000	586,451,000,000
売上総利益	163,195,000,000	170,291,000,000	212,418,000,000	248,395,000,000	293,682,000,000
売上高総利益率	48.00	44.35	47.33	47.30	50.08
販管費率	29.19	29.59	31.65	34.93	35.16
営業利益	63,955,000,000	56,693,000,000	70,356,000,000	64,964,000,000	87,493,000,000
売上高営業利益	18.81	14.76	15.68	12.37	14.92
経常利益	64,184,000,000	58,608,000,000	73,139,000,000	64,605,000,000	85,699,000,000
売上高経常利益	18.88	15.26	16.3	12.3	14.61
当期利益	31,367,000,000	33,886,000,000	40,440,000,000	31,776,000,000	43,531,000,000
売上高当期利益	9.23	8.83	9.01	6.05	7.42

青字:改善 赤字:悪化

2005 年に大きく売上総利益率を下げています。48.00%から 44.35%へと 3.65%の大きな下落です。商品の販売動向に応じて通期にわたり在庫処分を実施したほか、素材品質にこだわった新商品の投入などによるものです。

販管費率は連続悪化しています。フリースが爆発的に売れた時、㈱ファーストリテイリングは、臨時雇用者ばかりを増やし、正社員割合が 10%程度になった時期がありました。

最近では正社員割合を増加させてきています。

その為人件費率が高くなってきています。(連結では福利厚生費が不明の為推計している)

企業レベルが上がるに従って、優秀な人材育成を考えてのことでしょうか。

企業が成長する過程を見るような気がします。

安全性の各指標を見ていきましょう。

自己資本比率は 65%前後で安定しています。とても良い数字です。

固定比率、固定長期適合率は 100%を大きく下回り、良い数字です。

固定比率、固定長期適合率は悪化トレンドです。

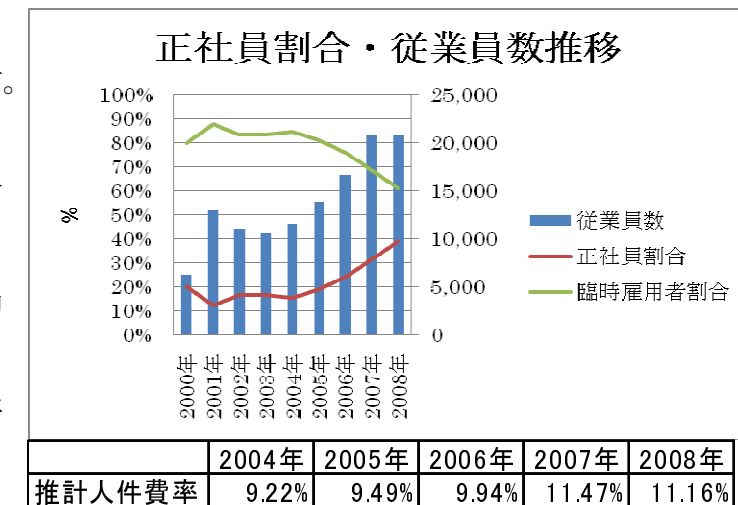
純資産や固定負債の増加

上に投資等を行い、悪化している訳です。ですから、単に悪いのではなく、将来の成長の為に投資している訳ですから、評価すべきことなのです。

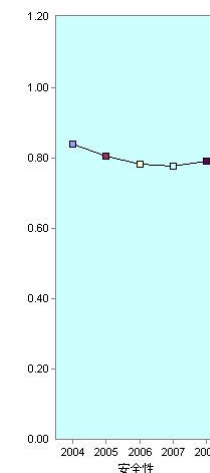
### まとめ

フリースに続き、ヒートテックで大ヒットした**㈱ファーストリテイリングは、素材メーカーまで巻き込み新製品開発をします。沢山のアイデアを出し、投資(人、モノ)をしています。その成功の陰には、失敗もあります。**

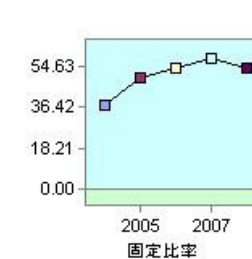
業種は違っても教えられることが多い会社ですね。



安全性

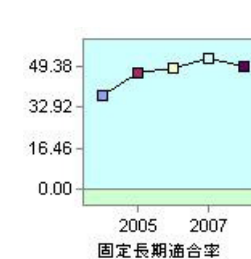


固定比率



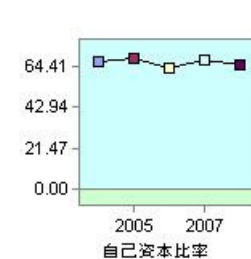
固定資産 ÷  
純資産

固定長期適合率



固定資産 ÷  
(純資産 + 固定負債)

自己資本比率



純資産 ÷ 総資本